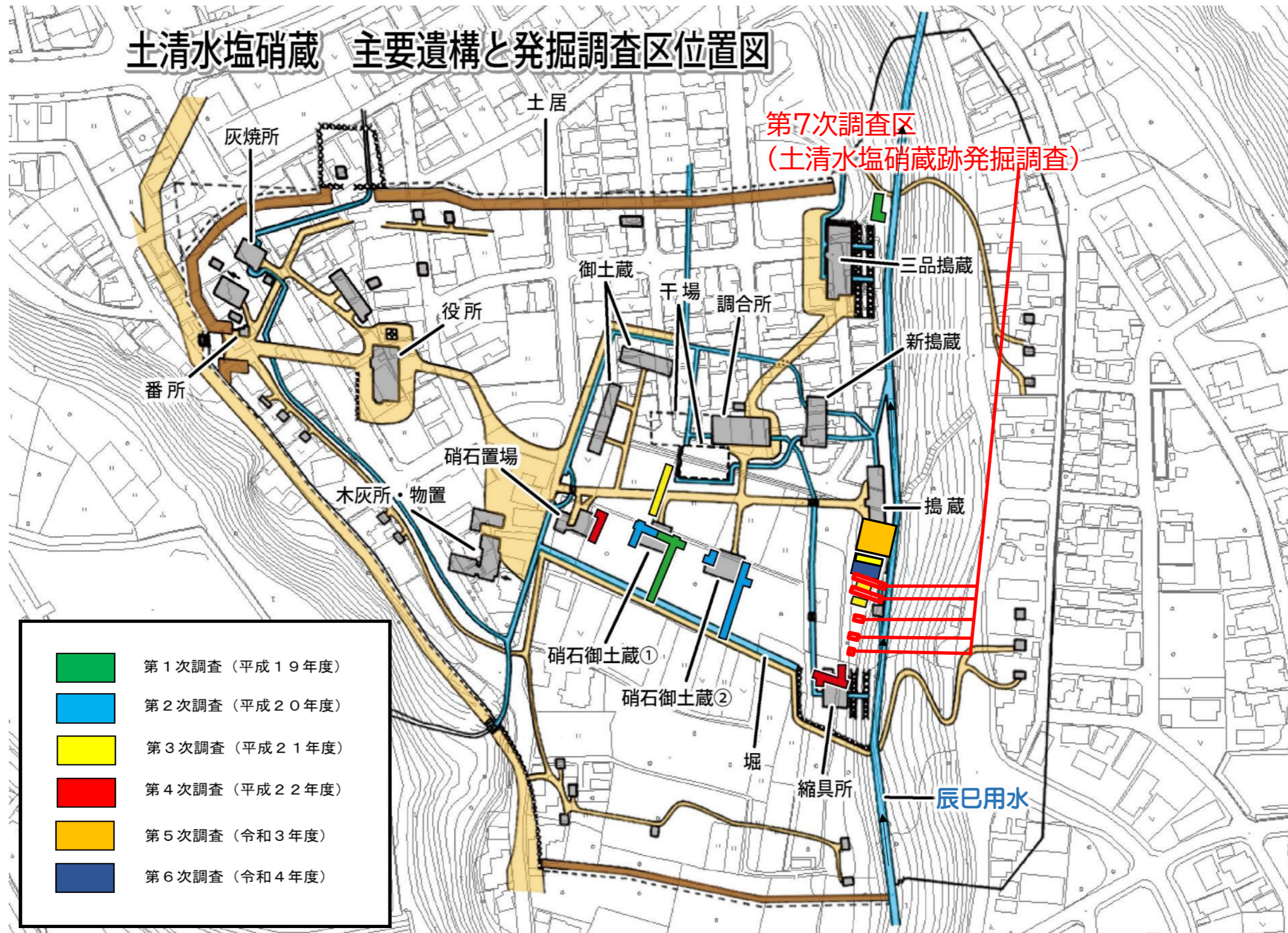


土清水塩硝蔵跡の調査位置



令和3年度（第5次）発掘調査の概要（搗蔵跡）



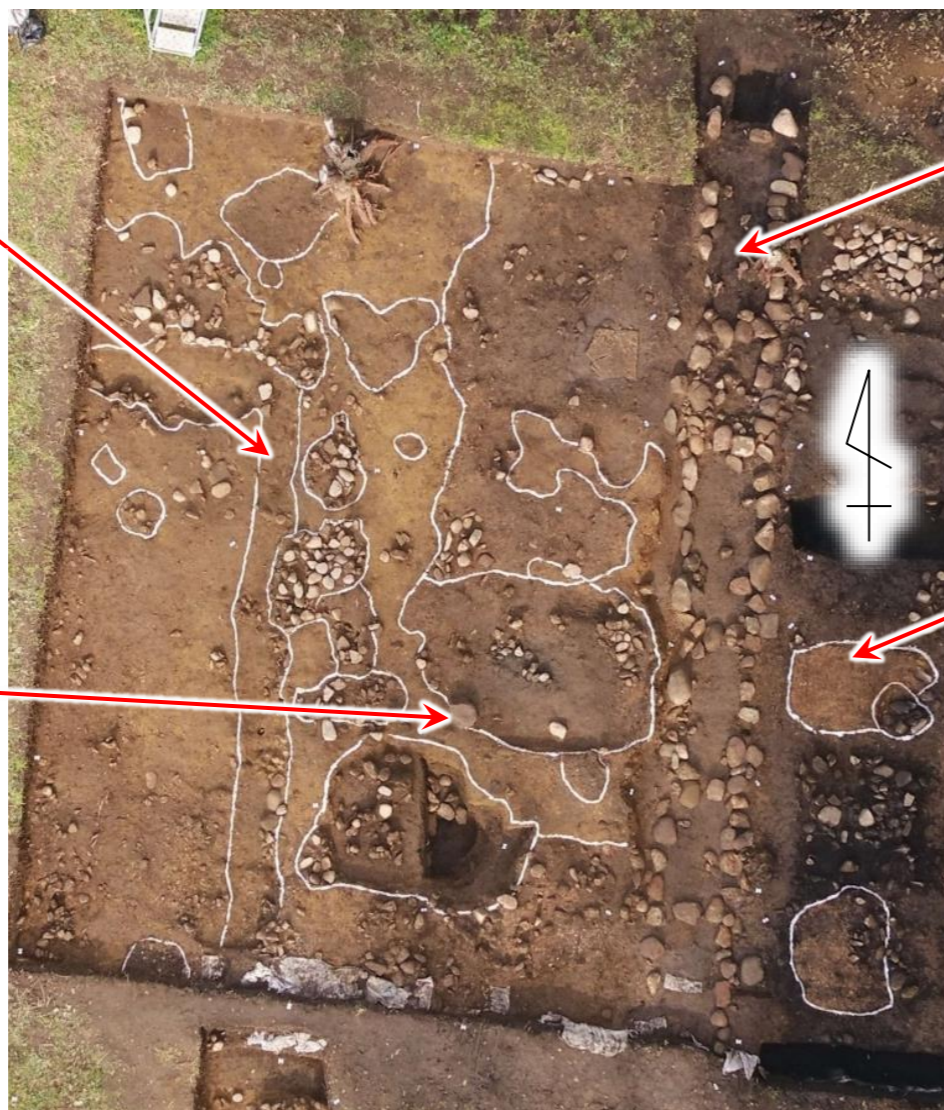
溝

- ・建物西端部分の雨落ち溝と考えられます。
- ・途中で西側に向かって屈曲しており、幕末の絵図にある搗蔵の突起部分に当たると考えられます。



礎石状の石

- ・水路跡の西側約2.5mで検出された、直径約0.3mの加工痕のある礎石状の石です。
- ・水車設備の一部の可能性がります。



水路跡

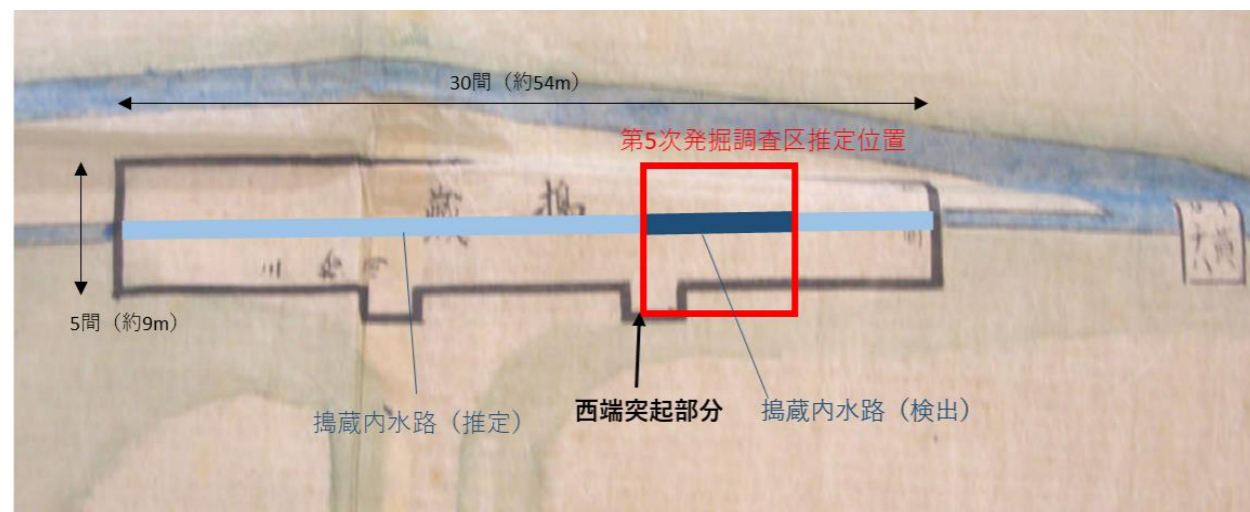
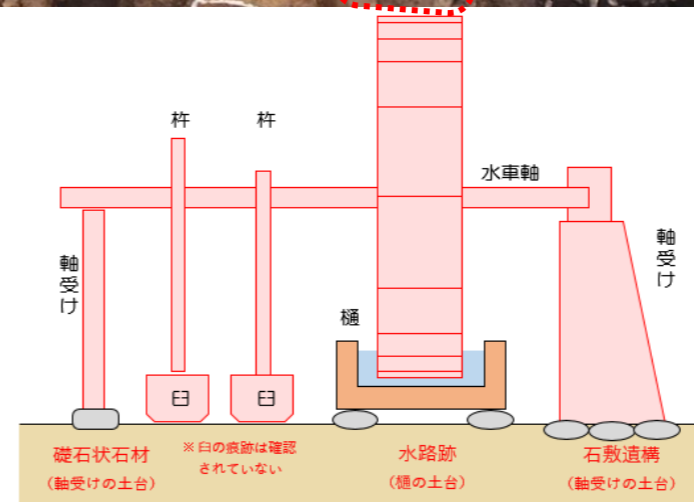
- ・0.2~0.3mの石材を平行に並べていました。
- 石列の間隔 外法：約1.0m 内法：約0.7m
- ・石材の大きさ・形状にはばらつきがありますが、上面の高さを一定にする傾向が見られました。
- ・石列を区切る形で横手方向の石列を確認しており、区切りは長いスパンと短いスパンがありました。
- ・石列はほとんどが1段積みで、部分的に高さ調整のため2段に積む箇所がありました。
- ・搗蔵内に導水した水路の痕跡と考えられ、木樋または石樋の土台である可能性が高いです。



石敷遺構

- ・水路跡の東側に隣接して検出された、長軸1.8m、短軸1.0mの遺構です。
- ・20~30cmの自然石の平坦面を上面に揃えて3列に並べてあり、隙間には拳大の礫を詰めていました。
- ・石敷の上には強く締まった黄褐色粘質土が載っていました。
- ・重量物を置くための基礎地業と見られ、水車設備に関連する遺構の可能性が高いです。

水車の復元案



「土清水製薬所絵図」(慶応4年)の搗蔵

令和4年度（第6次）発掘調査現場の遺構図（搗蔵跡）



令和3年度調査箇所

令和4年度調査箇所

円形石敷遺構

- ・長軸1.4m、短軸約1.2mの楕円形の石敷の中に、直径約0.7mの穴が空いています。
- ・水車設備の一部の可能性があります。



水路跡

- ・令和3年度調査で確認された水路跡の延長部分を確認しました。
- ・20~30cmの石材を平行に並べています。石列の間隔 外法：約1.0m 内法：約0.7m
- ・南側は削平によって途切れています。



石敷遺構

- ・長軸約0.9m、短軸約0.7mの石敷の遺構で、上面の高さをそろえるように石を並べてあります。
- ・水車設備の一部の可能性があります。



集石遺構

- ・長軸約2m、短軸約1.1mの楕円形の集石遺構です。
- ・水路跡に近く、水車設備の一部の可能性があります。



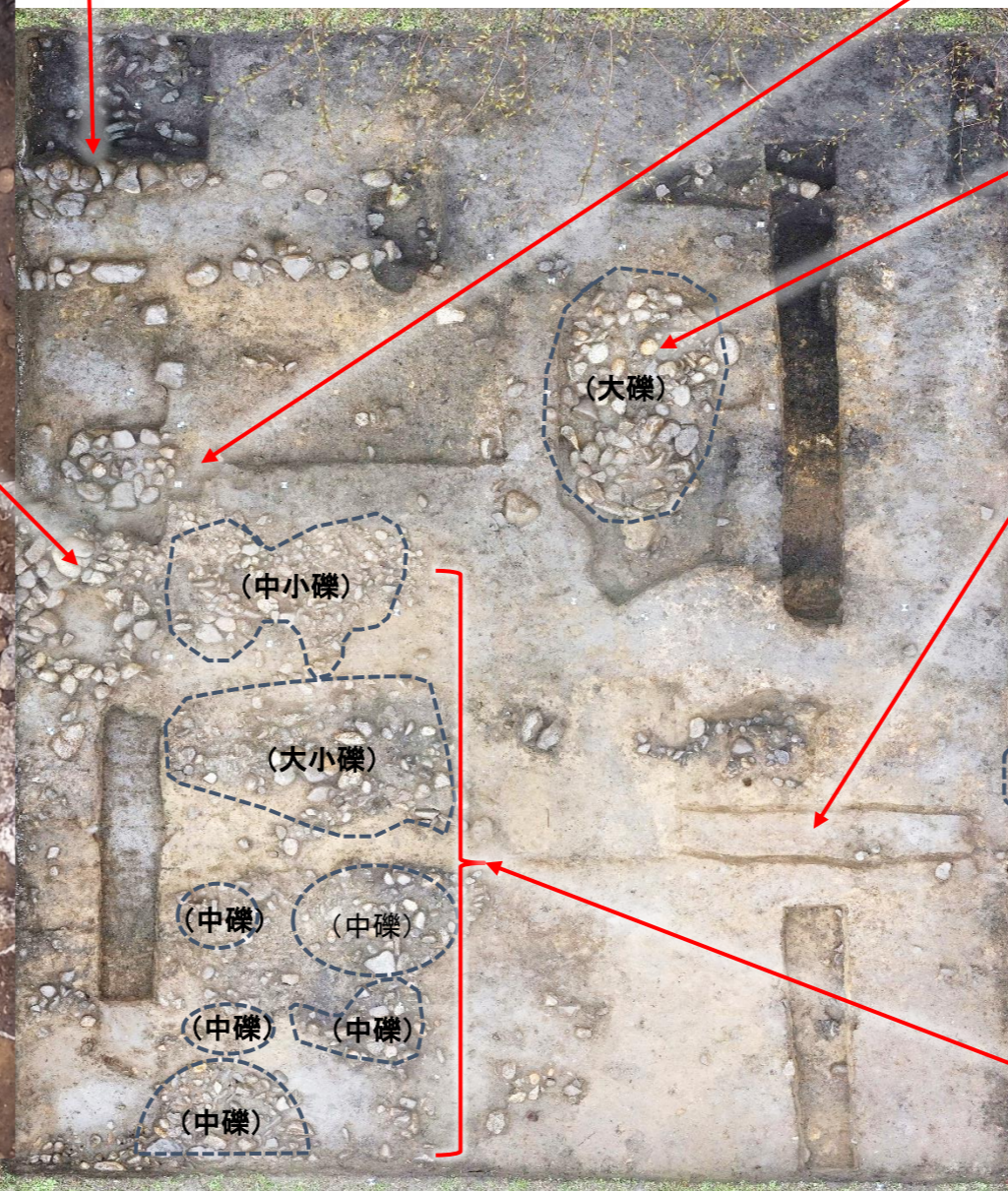
溝

- ・幅約0.4m、深さ約5cmの溝です。
- ・令和3年度調査で見つかった溝の延長にあり、搗蔵の西端を示していると考えられます。



集石遺構群

- ・西側で集石遺構を7箇所検出しました。
- ・元は1つの大きな遺構だった可能性があります。



令和5年度（第7次）発掘調査の概要

・調査区①②

○第5・6次調査区で約15mにわたって確認された、「搗蔵」への導水される水路の上流部で集石を確認しました。水路の位置を示すものと思われます。



①水路跡と考えられる集石

○第3・5・6次調査区から続く搗蔵の土間張り土を確認しました。



①②搗蔵土間の張り土

・調査区③

○「搗蔵」南側の段差地形は、地形を削って造成（切り土）していることを確認しました。



③段差地形の切り土

・調査区④

○搗蔵南側の一段高い平坦面において、建物の礎石と土間の貼り土、集石遺構を確認しました。近隣の施設としては「イオウカチバ」があったことが知られています。



④建物礎石と土間貼り土、集石遺構

・調査区⑤

○搗蔵南側の一段高い平坦面において、鉄釉のかかった丸瓦や平瓦がまとまって廃棄された状況を確認しました。近隣の施設としては「イオウカチバ」があったことが知られています。



⑤廃棄された鉄釉瓦

